

湘南工科大学附属高等学校

令和六年度 オープン入学試験問題

国語

マーク上の注意事項

- 1 HB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って、○の中を正確に塗りつぶすこと。
- 2 答えを直すときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。
- 3 決められた欄以外にマークしたり、記入したりしないこと。

良い例		悪い例	
			線
	丸囲み		小さい
	レ点		うすい
			はみ出し

一次の文章は、二〇一一年に起こった東日本大震災の防災について述べた文章である。読んで、後の問に答えなさい。（作問の都合上、本文を改めたところがあります。）

およそ「想定」^Aなしに人間が生きるということは考えられないことを認識する必要がある。「想定」を持たないで生きるということは百鬼夜行^{注1}、「夜討ち朝駆け」の世界で生きることであり、お互い万事出会い頭方式で生きることには他ならない。万人の万人に対する戦争状態を人間の自然状態として描いたトーマス・ホッブスによれば、そこでは「人間の生活は孤独で貧しく、つらくて残忍で短い」と見事に定式化している。実際、被災地の人々が冷静で秩序正しいのはある種の「想定」が共有されているからである。もしホッブスが描いたように人々が考え、行動するようになれば、略奪や盗難が横行することになろう。したがって、ある種の「想定」の共有は安定した生活、豊かな生活、穏やかな生活にとって不可欠の条件である。そして、「学ば」という行為の大半はある種の「想定」を持つことと密接不可分の関係にあるのである。

「想定」は人間が予見する動物であることと深く関係している。人間は過去の経験に基づき「想定」を持ち、経験を通して再確認することによって「想定」に対する信頼感を高めていく。「想定」が「想定」であるためには、はつきりした輪郭と内容を備えたものでなければならない。つまり、無限定なものではないということ、常に限定付きのものであることである。地震の例で言えば、マグニチュード8.0を「想定」して対策が立てられるのであって、「どんな地震にも耐えられる」対策というのは、厳密な意味ではあり得ないし、要領を得ないものになる。「想定」というのは、英語で言えば「イフ」に該当し、それに応じて「〇〇」という回答が出されることになる。この「イフ」のない問いかけというのは、技術の世界ではおよそ意味を持たない。もし「万全の対策」なるものが「イフ」抜きの記事を意味するとすれば、それは営業上のレトリックでしかない。「イフ」という条件付けなしにすべてを一挙に見通す存在があるとすれば、それは神であって人間ではないというのが思想史の教えるところである。そして、「想定」そのものを持たないで生きるのは伝統的に野獣とされてきたのであって、「想定」に依存して生きる人間は神と野獣との中間に位置するものとされたのであった。^B

「想定」がつねに一定の限定付きのものであることから、いくつかの議論が出てくる。たとえば、「たかが」一定の限定付きのものでしかないならば、そう真面目にそうしたものに基づいてあれこれ応対する必要はないという考えが出てくる。これは事実上、何も学ばず、何の努力もしないことを弁解する口実に使われる。あるいは、所詮人間のやることはあまり意味がないといった、諸行無常の宗教的なあきらめの心境につながるかもしれない。それにもかかわらず人間が「学ぶ」のは、予見する動物としての人間らしく、「想定」を踏まえた上で可能な限りにおいて不安定な未来に備え、そのために努力することに他ならない。それこそ、可能な限り、自らの運命を自らの力で守り、あるいは、切り開いていくという人間の精神的な態度の現れである。人間の作り出した文化や文明は、自然に対して「想定」に基づいて人工的な世界を作り出し、それを再生産してきた。その根底にあるのは「学ぶ」という精神的な活動であり、近代文明はまさに「学ぶ」ことを通して人間が樹立した巨大な構造物である。それによって人間は古くからの自然の限界である距離といったものを急速に克服した。その中で生きようとする限り、この巨大な構造物の少なくともある部分についてそれなりに「学ぶ」ことは避けて通れないことになる。そのために巨大な教育施設が作られ、高等教育は依然として膨張を続けて止むことがない。これは古老の話に耳を傾けて変化に無縁な静かに生きる世界とはまったく違った世界である。両者において「学ぶ」ということの意味が全く違うことは言うまでもない。

東日本大震災は基本的に「想定外」の出来事であった。

a 関係当事者が口にする「想定外」という言葉はつねに責任

逃れのニュアンスがつきまとい、本当は「想定」すべきであった事柄を無視し、「想定外」という領域に逃げ込んでいるのではないかという疑いが残る。実際、「想定外」という言葉には不可抗力といった免責のニュアンスが含まれている。人間世界では「想定外」の事態に対してさえ、何らかの判断を下さなければならぬ局面があるのも冷厳な事実である。したがって、「想定外」のことも考えておく必要がある。

さらには「想定内」での対策さえ十分にしていなかったことを、「想定外」という言葉で弁解するのは論外である。当然、このことは今後の検証の中でいろいろ取りざたされるであろう。議論がある「想定」の範囲に無理に抑え込もうとする態度には、

過去にこだわらすぎるといふ別の問題がある。言い方を換えれば、これまでの「学び」に呪縛され過ぎ、発想の転換ができないという問題である。「想定」なしに生きられないことと、特定の内容の「想定」しかないと思ひ込むこととの間には雲泥の差がある。この差を埋めるのが「学ぶ」ということである。

ここで大事なことは、「学ぶ」という行いには、「想定」の枠内での積み上げ的な「学び」だけを意味するわけではなく、その枠を超える「学び」の能力も含まれているということである。

から眺め、突き放して観察するという知的な行為がそれである。これは自らがこれまで行ってきたことを乗り越える人間の能力といつてよいが、これによつてマンネリ化しがちな「学び」は「学び続ける」という能動的な知的な行為へと転換していく。

実際、人間はそれまでの「想定」が決定的に崩壊したり、破壊されたりすると、それまでの価値判断を見直し、c、生

き方を変えることによつて新たな選択を行つてきた。それは今度のような大震災に限らず、政治体制の崩壊といった状態においても発生することである。よく知られているように、昭和20年(1945年)とそれに続く数年の混乱はその代表的な例であつた。一定の「想定」に執着し、時にはそれに殉ずることも人間の一つの生き方であるが、それまで「学んできた」ことを相対化し、それを乗り越えて新たに「学ぶ」こと、それによつて生きることまた人間の選択の中にある。今度の大震災を契機にこれまでの生き方を考え直すといった発言が随所で聞かれるようになったが、それもこうしたことの現れと考えられる。

昔から「人間とは何か」についてさまざまな哲学的な考察が加えられ、さまざまな定義や規定が行われてきた。「人間は理性的な動物である」といふ見解もあれば、マルクスは「人間は労働する動物である」と考えた。最終的にどのような規定に到達するにせよ、人間が「選択する動物」であることがあらかじめ前提に置かれていたことを見逃すことができない。倫理や政治といったものが話題になるのは人間がまさに「選択する動物」だからである。俗な言い方をすれば、説教に意味があるのは聞く側に選択の余地があるからであつて、その余地がなければ、何を言つても無駄でしかない。この「選択する動物」という人間の側面は、自由主義といった大看板とはレベルの違う、人間の根本的なあり方といふべきである。

この選択と「学ぶ」といふのは一体不可分の関係にあり、新しく「学ぶ」ことを通してそれまでの「想定」から自由になる

ことは、「学ぶ」という行為に内在する人間の自由の現れとすることができ。 「想定外」のことを考えることは、それだけ思考の自由度が高まり、これまでの「想定」の見直しに止まらず、新しい「学び」へのチャレンジの機会になる。それは新しい社会作りへの突破口になるかもしれない。 ^G 実際、自由な存在としての人間にとつて、「学び続ける」ということは欠かせない生存条件である。

大震災後の復興について様々な意見や憶測が寄せられている。その成否はかなりの部分、そこで「想定」される復興のイメージにかかっている。放置しておけば、復興は「復旧」になってしまい、古い「想定」が再生産されることになりかねない。それをもって復興と呼ぶのは「学び続ける」人間のあり方としてはいさか悲しい成り行きであり、多くの亡くなった人々の無念に応える点でも寂しい道行きである。さらにこの大震災は、原発事故を通してエネルギーと環境の問題に正面から取り組む必要を突きつけた。こうした大震災はわれわれがこれまで何を「学び」、この大きな犠牲から何を「学ぶ」かが問われる大きな機会であり、大事な機会である。事態を正確に知り、理解し、「想定」を疑い、そして超えるべき機会である。大震災は大きな悲劇・惨劇であるとともに、高価な犠牲と引き替えに何を「学ぶ」のかが問われる重大な局面でもある。その多大なる犠牲を無にしてはならない。

（佐々木毅『学ぶとはどういうことか』）

注1 百鬼夜行

…いろいろな妖怪が夜中に列を作つて出歩くこと。

注2 トーマス・ホッブス

…イギリスの哲学者。自然状態では人間の万人に対する戦い状態にあるが、相互の契約によつて主権者として国家を作り、万人がこれに従うことによつて平和が確立されることを説く。主著に『リヴァイアサン』がある。

注3 マルクス

…ドイツの経済学者・哲学者。社会主義の立場を創始し、資本主義体制を批判した。主著に『資本論』がある。

問一 傍線部A「『想定』なしに人間が生きるということは考えられない」とありますが、なぜですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1 「想定」を持たないで生きるということは、どこから鬼が出てくるか、いつ人に襲われるか分からない状態で生きること
を示し、力の強いものしか生き残ることができなくなるから。

2 「人間の生活は孤独で貧しく、辛くて残忍で短い」と定式化された生き方を避けようとする共通認識が、冷静で秩序正しいある種の「想定」を生み出しているから。

3 将来においてどのようなことが起こるかを「想定」してその「想定」を共有しないと、略奪や盗難が横行し、豊かで穏やかな安定した生活を送ることはできないから。

4 その時々起こったことをその場で考え対処していこうとしていては長い人生を渡りきることはできず、どこかで自分の将来について真剣に考えるときがやってくることになるから。

問二 傍線部B「人間は神と野獣との中間に位置するもの」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1 すべての人間を救うことのできる神と自分が生きることしか考えない獣との中間であるということ。

2 人間の意志の及ばないところにいる神と人間の想像の範囲の中で生きる獣との中間であるということ。

3 人間の心をすべて見通し操ることのできる神と「想定」そのものを持たない獣との中間であるということ。

4 将来起こることをすべて見通せる神と将来のことを考えずに現在のことしか考えられない獣との中間であるということ。

問三 傍線部C「何も学ばず、何の努力もしないことを弁解する口実」とありますが、この「口実」はどのような考えによるものですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

- 1 出来事はすべて一回限りのものであり、全く同じ出来事が起こることはなく、どれほど対応策を考えても大概その対応策がうまくいくことはないので、かえって「想定」などしないほうがよいという考え。
- 2 人間のやることに大した意味はなく、さまざまなことを「想定」してそれがうまくいってもいなくても時間がたてば大方のものはなるようになるので、何もしないでいるのが最も人間らしいという考え。
- 3 物事が起こる可能性は限りなくあるので、すべての可能性を「想定」してその対応策を考えることは不可能であり、その時になってみないとどうなるか分からないものに労力をかけることは無駄だという考え。
- 4 災害はくり返されるものであり、何もしないで人任せにしたほうが、「想定」が外れ大きな被害が出たときに自分の責任にならないのでよいという考え。

問四 傍線部D「『想定外』という言葉はつねに責任逃れのニュアンスがつきまとい」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

- 1 「想定外」という言葉を口にすることで、「想定内」のことに対処しなかったことや、「想定外」であつても考えておかなければいけなかったことに対して無責任になっているということ。
- 2 「想定外」と言ってしまうば多くの人が納得すると考え、どのような場面でも「想定外」の一言で片付けて新たな方策を示さないことに、責任を他人に押しつけようとする意図が見られるということ。
- 3 「想定外」のものと「想定内」のものとを区別して、「想定内」のものには適切に対処していかななくてはならないので、その区別の曖昧さを除くことで責任の所在をはっきりさせようとしているということ。

4 「想定外」という言葉の中に、出来事の大きさのために誰の責任でもないという印象を多くの人に与えようとする意図が読み取れ、問題を先送りしてしまうのではないかと心配されるということ。

問五 空欄

a

}

c

 に入れる語として最も適するものをそれぞれ選び、マークしなさい。ただし、同じ語が二カ所に入

入ることはありません。

- 1 つまり 2 しかし 3 あるいは

問六 傍線部E「昭和20年（1945年）とそれに続く数年の混乱」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

- 1 第二次世界大戦で日本が連合国に敗戦したあとに新しい政治体制を作るまでの混乱。
- 2 中東戦争を原因として起こった石油ショックに見られるような日常生活の混乱。
- 3 日本が高度経済成長期にアメリカの産業を脅かすほどに成長したために起こった経済摩擦による混乱。
- 4 武家社会が崩壊することにより西洋の文化が大量に輸入され価値観の変換を迫られて起こった混乱。

問七 傍線部F「選択する動物」とありますが、どのようなことを表していますか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

- 1 職業や結婚について選択する自由が法律で認められている動物であること。
- 2 自ら判断し、自分の生き方を自分の意志で決めていく動物であること。
- 3 道徳的に生きることによりよい生活を求めていく動物であること。
- 4 理性を持ち、どのような仕事をするかを選ぶことができる唯一の動物であるということ。

問八 傍線部G「実際、自由な存在としての人間にとって、『学び続ける』ということは欠かせない生存条件である」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1 さまざまなことを自由に「想定」してその「想定」の枠を広げ、「想定外」と「想定内」の差をなくしていく必要があるということ。

2 過去の「想定」は役に立たないこともあり、「想定」されることを超えて「想定外」のことを考えていく自由さを持つ必要があるということ。

3 何を学ぶのかという選択は大切であり、学んだ知識を積み重ねることに加えて自由な発想をする必要があるということ。

4 自ら自分の生き方を決めていく人間にとって「想定外」のことも含めて考え続けることは、生きていく上で必要なことであるということ。

問九 傍線部H「寂しい道行き」とありますが、どのようなことですか。次の中から最も適するものを選び、マークしなさい。

1 大災害後の復興についての様々な意見や憶測と関わりなく、何を学んでいかなくはならないのかを「想定」から超えた形で考えなければ、復興ではなく、「復旧」で物事が収まってしまうということ。

2 これまでに起こってきた災害から得られる教訓を元に、将来起こりうる災害に関して「想定」をし続けることで被害を縮小しなければ、人間の知恵は発達しないばかりか衰退してしまうということ。

3 これから起こりうる災害に対して、「想定」の範囲内での復興では「復旧」にとどまっていまい、また、大きな被害を出した災害であるにもかかわらず、その教訓を生かしていないということ。

4 復興のイメージを共有し、これから起こりうる災害に対して前向きに学ぶ姿勢を持ち、町を以前あった姿に戻していくのでなければ、亡くなった人たちの無念さに応えることはできないということ。

問十 次の各文のうち、本文の内容に合うものには1を、合わないものには2をそれぞれマークしなさい。

A 「想定」は英語で言えば「イフ」にあたるが、「もし何々だしたら」という「想定」を超えた問いに答えを出すことが、技術の世界では求められている。

B 人間は、古くからの自然の限界である距離といったものを「学ぶ」ことによって克服してきた。

C 「人間とは何か」の定義の一つである「人間は理性的な動物である」や「人間は労働する動物である」などの中から、それぞれ好きな定義を選択して、自らの生き方を決めていくことがこれからの時代には求められる。

D 説教に意味があるのは、聞く側にその説教を聞くか聞かないかを選ぶ権利があるからである。

E 大震災は、大きな悲劇ではあったが、私たちはこの経験から、高価な犠牲と引き替えに多くのことを学ぶ機会を得ることができる。

二次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（作問の都合上、本文を改めたところがあります。）

今は昔、大隅^{注1}の守^{注2}の、国の政^{注3}したため行ふあひだに、郡^{注4}の司^{注5}のしどけなきことどもありければ、^A「召^{注6}しにやりて、いましめむ」と言ひて、人やりつ。先々かくしどけなき事ある折は、罪にまかせて重く軽くいましむることあり。それ、^B一度にあらず。たびたびかさなりたることなれば、これもいましめむとて、^a召^{注7}すなりけり。

さて、「ここに召して候ふ。」と申しければ、先々するやうにそへ伏せて、尻頭^{注8}に上るべき人、^{注9}答^{注10}を切りまうけて、打つべき人などまうけてあるに、人二人して引き張りて率^{注11}て来たるを見れば、頭は黒き髪もまじらず、いみじう白う見るに、^C打たせむ事のいとほしうおぼえければ、^D「何事^{注12}に事をつけて、これを許さむ」と思ふに、ことつくべき事もなし。あやまちどもを片端より問ふに、ただ老いをのみ高家^{注13}にて答^{注14}へをり。「いかにしてこれ許してむ」と思ひて、「己はいみじき盗人かな。さ^{注15}はありとも、歌はよみてむや。」と言ふに、^{注16}「はかばかしうはあらずとも、つかまつりてむ。」と答ふ。「いで、さはよめ。」と言へば、^d程もなく、わななかしううち出だす。

年を経て頭に雪はつもれどもしもと見るにぞ身は冷えにける

と詠みたりければ、守いみじう感じ、あはれがりて、^I許してやりてけり。

（『古本説話集』）

注1 大隅の守 ……大隅の国（現在の鹿児島県）の長官。

注2 したため ……管理する。

注3 郡の司 ……国の下に属する行政区画の統括者。

注4 しどけなき ……だらしない。

注5 答 ……木の若枝でつくつたむち。

注6 まうけて …準備する。

注7 高家 …口実。

注8 はかばかしう …きちんとしている。

問一 波線部 a 「召すなりけり」、b 「率て」、c 「答えをり」、d 「言へば」の主語として最も適するものをそれぞれ次の中から選び、マークしなさい。

- 1 大隅の守 2 郡の司 3 尻頭に上るべき人 4 人二人

問二 波線部 A 「召しにやりて、いましめむ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 郡の司に着替えるように、注意しよう。 2 大隅の守に頼んで、痛い目に遭わせよう。
- 3 郡の司を呼び寄せて、こらしめよう。 4 郡の司の代わりに、大隅の守を処分しよう。

問三 波線部 B 「それ」の内容として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 大隅の守の挫折 2 郡の司の挫折 3 大隅の守の怠慢 4 郡の司の怠慢

問四 波線部 C 「打たせむ事のいとおぼえければ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 答を打たせることがかわいそうに思われたので 2 答を打たれるような覚えがないので
- 3 答で打たせるといことが言えなかったの 4 答で打たれることが大切だと思ったので

問五 傍線部D「何事に事をつけて、これを許さむ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 これから事件が起きたら、これを許さなければならぬ。
- 2 たとえ何が起こったとしても、これを許すはずがない。
- 3 何か他に良い行いをすれば、これを許そう。
- 4 何かにかこつけて、これを許してやろう。

問六 傍線部E「ことづくべき事もなし」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 決心がついたのに行動しない。
- 2 許してそばにいることもできない。
- 3 許す理由になるようなこともない。
- 4 到着するのを待つことができない。

問七 傍線部F「さ」は指示語ですが、その内容として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 老いをのみ高家にて
- 2 いかにして
- 3 これ許してむ
- 4 いみじき盗人かな

問八 傍線部G「歌はよみてむや」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 歌はよみたいと思わない。
- 2 歌はよめるのか。
- 3 歌に合わせて踊れるだろうか。
- 4 歌はどうでもよい。

問九 傍線部H「つかまつりてむ」の解釈として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 捕まえましょう。
- 2 よんでみましょう。
- 3 掴^{つか}んでみましょう。
- 4 使^{つか}ってみましょう。

問十 傍線部Ⅰ「許してやりてけり」とありますが、その理由として最も適するものを次の中から選び、マークしなさい。

- 1 郡の司は大隅の守のよんだ歌のあまりの素晴らしさに驚きを感じたから。
- 2 郡の司は大隅の守の歌を聞いてひどく悲しく感じたから。
- 3 大隅の守は郡の司の歌をよむ態度にしみじみと心を打たれ、かわいそうに思ったから。
- 4 大隅の守は郡の司のよんだ歌にたいそう感心し、同情したから。

問十一 次の各文のうち、本文の内容に合うものには1を、合わないものには2をそれぞれマークしなさい。

- A 大隅の守がどれほど注意しても郡の司の仕事ぶりは変わらなかった。
- B 郡の司は罪を聞かれても年を取っているということだけしか答えなかった。
- C 郡の司は仕事だけではなく、生活面でもだらしかなかった。
- D 大隅の守は白髪頭の郡の司をみてかわいそうだと思った。
- E 大隅の守は白髪頭を雪にたとえた見事な歌をよむことができた。

三 次の各問に答えなさい。

問一 次のa～eの俳句はどの季節を表したものですか。最も適するものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。なお同じ選択肢を複数回選んでもかまいません。

- a 名月をとつてくれろと泣く子かな
- b 雪とけて村いっぱいの子どもかな
- c 旅に病んで夢は枯野をかけ廻る
- d 菜の花や月は東に日は西に
- e 閑さや岩にしみ入る蝉の声

1 春 2 夏 3 秋 4 冬

問二 次のa～dの文に見られる修辞法として、最も適するものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。

- a 彼はチーターのように早く走る。
- b 夜風が私に「早く帰れ」とささやきかけた。
- c 今日は晴れているので、洗濯するには最適。
- d もう日が暮れかかっている。まだ四時だというのに。

- 1 直喩
- 2 隱喩
- 3 擬人法
- 4 倒置法
- 5 体言止め

問三 次の傍線部 a～e の品詞名をそれぞれ後から選ぴ、マークしなさい。

「おい地獄さ行ぐんだで！」^a

二人はデッキの手すりに寄りかかつて、蝸牛^{かたむり}が背のびをしたように延びて、海を抱え込んでいる函館の街を見ていた。――
漁夫^{ぎよふ}は指元^{しげん}まで吸いつくした煙草を唾と一緒に捨てた。巻煙草はおどけたように^b、色々にひっくりかえつて、高い船腹^{さいど}をすれずれに落ちて行つた。彼は身体一杯酒臭かつた。

赤い太鼓腹^{たいこばら}を巾広^{はば}く浮かばしている汽船^cや、積荷^{つみに}最中らしく海の中から片袖をグイと引張られてでもいるように、思いッ切り片側に傾いているのや、黄色い^d、太い煙突^e、大きな鈴のようなヴイ、南京虫^{ナシキンむし}のように船と船の間をせわしく縫っているランチ、寒々とざわめいている油煙^{ゆえん}やパン屑^{くず}や腐つた果物の浮いている何か特別な織物のような波……。

(小林多喜二『蟹工船』)

- | | | | | |
|------|-------|--------|------|--------|
| 1 動詞 | 2 形容詞 | 3 形容動詞 | 4 名詞 | 5 連体詞 |
| 6 副詞 | 7 接続詞 | 8 感動詞 | 9 助詞 | 10 助動詞 |

問四 次のa～eの意味に当てはまる慣用表現として、最も適するものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。

- a 手ごたえや張り合いのないこと。
- b 才能があつて頭角を現す人は、とかく人から憎まれるということ。
- c その道にすぐれている人でも、時には失敗することがあるということ。
- d 物事は、実際に行つてみると、事前にあれこれ心配していたより案外たやすくできるものだということ。
- e 自分の利益にならないのに、他人のために危険を冒すこと。

- 1 案ずるよりも産むがやすし
- 2 石橋を叩いて渡る
- 3 火中の栗を拾う
- 4 出る杭は打たれる
- 5 河童かっぱの川流れ
- 6 焼け石に水
- 7 暖簾のれんに腕押し
- 8 身から出た錆さび

問五 次のa～hの傍線部に相当する漢字を含むものをそれぞれ後から選び、マークしなさい。

a 他人の権利をオカす。

1 濁流が床下にシンニュウした。

2 不法シンニュウの罪に問われる。

3 ここは車はシンニュウ禁止の道だ。

b 高校に入って成績がノびる。

1 キンシン処分を言い渡される。

2 手紙にツイシンを書く。

3 音は空気をシンドウさせて伝わる。

c 天ぷらをアげる。

1 ヨクヨウの無い言い方をする。

2 日本フヨウを習う。

3 彼をヨウゴすることはできない。

d 母のカタワらにたたずむ。

1 アイボウに助けられる。

2 ボウトウ部分を音読する。

3 ボウジャク無人な行い。

e 先祖をオガむ。

1 まさに二律ハイハンの関係だ。

2 社長の自宅をハイケンする。

3 勝利のシユクハイをあげる。

f タちばさみで切る。

1 サイムを整理する。

2 トマトをサイバイする。

3 サイバン員制度を学ぶ。

g 足りない部品をオギナう。

1 損害をホシヨウする。

2 ホケンのきかない葉。

3 ホリヨを開放する。

h 現役を退き隠キヨする。

1 渡り鳥がサっていった。

2 来るものは何事もコバまない。

3 授業でイネムりしてしまう。

